

温州みかんの完熟栽培による果実品質向上

【要約】 温州みかんは完熟栽培により果実の糖度が上昇して食味が向上する。品種は原口早生、興津早生など早生温州が適するが、クエン酸の減少程度は地域、品種などにより異なるので、収穫時期の決定はクエン酸及び甘味比の調査に基づいて行う。

園芸研究所・果樹部・常緑果樹研究室

連絡先 092-922-4111

部会名	園芸	専門	栽培	対象	果樹類	分類	普及
-----	----	----	----	----	-----	----	----

【背景・ねらい】

温州みかんの栽培では、近年の消費者嗜好の変化に対応して、高付加価値果実の生産が求められている。温州みかんは通常より収穫時期を遅らせる完熟栽培により果実の糖度が上昇するが、品種や地域による果実品質への影響は明らかにはなっていない。このため温州みかんの完熟栽培における品質変化を調査し、品種や地域による差異を明らかにして、完熟栽培の技術確立を行う。

【成果の内容・特徴】

- ①温州みかんは12～1月に収穫することにより、慣行の収穫期より果実の糖度が2～3度高くなり、クエン酸が減少して甘味比が上昇し、食味が著しく良くなる（図1、図2）。
- ②完熟栽培では、極早生温州は浮き皮が多くなって果皮が傷みやすく、普通温州は減酸が遅れるため、原口早生、興津早生などの早生温州が最も適する（表1）。
- ③クエン酸の減少や甘味比の上昇程度は品種、年度や地域によって異なる（図1、図2、表1）。
- ④フィルムマルチ処理を行った温州みかんでは、果実の糖度と共にクエン酸も上昇しやすくなるが、このような樹で完熟栽培を行うと、果実の糖度がさらに上昇して減酸が促進され、食味が向上する（図3）。

【成果の活用面・留意点】

- ①収穫時期の決定はクエン酸及び甘味比の調査に基づいて行うが、早生温州の場合、県内では減酸の早い地域は12月中下旬、減酸の遅れる地域は1月中下旬が完熟果の収穫期の目安である。
- ②園地は温暖な場所を選定し、果実を越年させる場合は、寒害防止のため紙袋などにより袋掛けを行う。
- ③完熟栽培樹には枝別摘蕾摘果などの隔年結果防止対策を講じる。

[具体的データ]

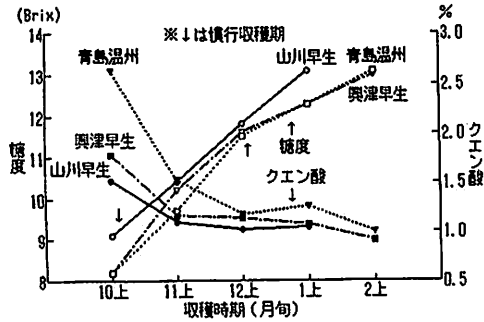


図1 完熟栽培温州みかんの品質変化 (平成2~4年平均)

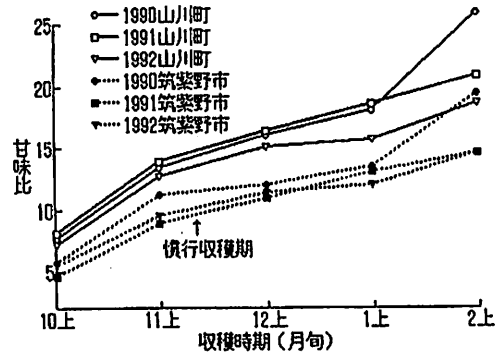


図2 産地や年度の違いによる完熟栽培興津早生の甘味比の変化 (平成2~4年)

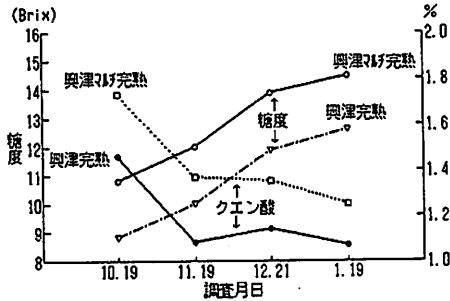


図3 フィルムマルチ処理した完熟栽培温州みかんの品質変化 (平成4年)

表1 完熟栽培温州みかんの品種と品質 (平成3年)

品種名	果皮色	浮皮程度	糖度 (Brix)	クエン酸 (%)	甘味比
極早生 山川早生	8.1	1.3	13.9	1.06	14.8
早生 白浜1号	8.4	1.1	13.7	1.02	14.8
早生 原口早生	7.8	0.5	14.3	1.05	18.0
興津早生	8.2	0.7	13.5	1.17	13.0
南柑20号	8.5	0.4	13.3	1.30	11.4
普通 大津4号	7.8	0.1	14.0	1.35	11.6
青島温州	8.1	0	13.4	1.44	10.5

注) ①調査月日は1月6日

②果皮色はカラーチャートの指数

③浮皮程度は0(無)~3(甚)

[その他]

研究課題名: カンキツ果実品質の時期的変化

予算区分: 経常

研究期間: 平成4年度 (平成2~4年)

研究担当者: 矢羽田二郎、大庭義材、桑原実

発表論文等: ウンシュウミカンの完熟栽培における果実品質及び糖組成の変化、園芸学会九州支部研究取録、第1号、1992。